

## マラウイ便り

2015.1.1

中田耕司

プロジェクト名：マラウイ国 持続可能な土地管理促進プロジェクト

担当業務：施肥・圃場管理

本プロジェクトはマラウイの首都リロングエから北に 350 kmに位置するムズズ市を拠点に、北部 4 県を対象として、劣化が激しい農地の土壌を保全するため、堆肥技術を中心とする持続的土地管理技術の開発と普及を目的としています。マラウイでは、化成肥料購入クーポン券配布プロジェクトが実施され、10 年以上前から多くの農家が化成肥料に頼った栽培をしてきた経緯があります。化成肥料に依存した栽培によって土壌の有機物や微量元素は著しく減少し、将来にわたる安定したメイズの収穫量の維持が危ぶまれています。

私の主な業務は対象地域内にある 3 ヶ所の研究圃場で、堆肥製造技術の検証と堆肥投入効果を科学的に実証することです。現地で代表的な Changu, Windrow, Bokashi という三種類の堆肥製造方法で、農家の現状を組み入れた様々な環境下で製造し、マラウイの主食であるメイズを用いて栽培試験を実施します。ここでいう Bokashi とは日本のボカシ肥から来ており、その言葉はここマラウイでも広く知られています。因みに、Changu とは現地の言葉で「Speed」と言う意味で促成堆肥の意味を成すそうです。Windrow とは欧米で一般的な大量生産型堆肥の名前を由来としています。

私は、主にルニヤングワ研究圃場で、マラウイ側カウンターパート職員や現地プロジェクトスタッフと共に日常業務にあたっているのですが、ここでの楽しみはパートタイマーの近所のお母さんたちとの触れ合いです。中には、毎日 1 時間程歩いて通うお母さんや、生まれたばかりの赤ちゃんを連れてきたりといろんなお母さんが集まります。作業中赤ちゃんは一人で畑の上に寝かされていて、日本での子育て事情との違いに驚くこともあります。お母さんの中には夫を亡くした方もおり、「牛を 3 頭連れて来れば結婚してあげるわよ」と聞かれます。「3 頭で足りるのか？」と聞き返すと「私がもう少し若くてきれいだったら 5 頭請求するわ」と答えるなど、お国柄を含めた冗談も飛び交いながらの和気藹々とした現場です。このようにプロジェクト現場では、現地の風習や文化について様々なことを教わり、業務以外で勉強することが多く、実りある毎日を過ごしています。

今回の派遣は私にとって 3 回目のマラウイ派遣であり、本プロジェクトによる堆肥投入効果の実証試験は今年で二期作目を迎えました。昨年の試験においては現地で作成された堆肥の投入効果が収量から見られ、土壌分析の結果を組み合わせる科学的に実証されつつあります。プロジェクトでは研究所での実証と共に対象地域内の選定農家圃場を利用した技術の普及にも取り組んでいます。今後は研究所で確立されつつある技術を如何に農家に普及し、如何に定着させるかが課題です。農家の目線に立った技術の確立と普及に努めなければいけません。これらの活動が、将来、持続的かつ安定した食糧生産に役立つことを願っています。

		
メイズの圃場栽培試験	選定農家でのモニタリング	畑で眠る赤ちゃん